

報道関係各位

2017年12月5日

**京都造形芸術大学の学生による真珠アクセサリーブランド「ミスパール」期間限定ショップが登場！
学生がデザインした「笑顔」をモチーフにしたアクセサリーなどを販売。**

■会 期:2017年12月6日(水)～12月25日(月)

■会 場:京都高島屋1階婦人雑貨特設会場(京都市下京区)

■時 間:午前10時～午後8時

京都高島屋(京都市下京区)で、2017年12月6日(水)から、京都造形芸術大学(京都市左京区)の「ミスパールプロジェクト」と株式会社カムデン(京都市左京区)がコラボして立ち上げたブランド〈ミスパール〉の真珠のアクセサリーを、期間限定で販売します。(2017年12月25日まで)

〈ミスパール〉は、2014年に京都造形芸術大学のリアルワークプロジェクトの中で誕生しました。真珠をデイリーなファッションアイテムとして「もっと気軽に」「若い世代向けのデザインで楽しみたい」という想いからスタートしたブランドです。プロジェクトはメンバーを入れ替えながら継続し、現在は「若い世代に真珠の価値を伝える」をコンセプトに活動しています。

そして、このたび、京都高島屋に〈ミスパール〉期間限定ショップが登場します。商品デザイン、店舗の空間デザイン、WEBデザインなどを学生たちが担当しました。

また、今回の期間限定ショップに向けて、高島屋のバイヤーが、クリスマスギフトにも最適な、日常使いできる「ハッピー」「ラッキー」なモチーフをテーマにした新作を学生とともに制作。デザインは主に3名の学生が担当しました。それぞれの感性で、「笑顔」「ハート」など自分たちにとってハッピーなモチーフを題材に試行錯誤しながらデザイン・制作を進めました。

会場には、笑顔の口元をモチーフにしたピアスなど約40種類のデザインのアクセサリーが並びます。会期中は連日学生たちが店頭で販売予定です。(授業等により不在の日時がある可能性があります。)



■取り扱い種類:ネックレス、ピアス、イヤリングなど約40デザイン(予定)

■予定中心価格帯:ネックレス(10,000円～15,000円台 予定)、ピアス(5,000円～12,000円台 予定)

※いずれも予定価格帯です。変更の可能性があります。

お問い合わせ

京都高島屋

TEL 075(221)8811(代)

販売商品の一例

【京都高島屋限定】ピアス(淡水パール)各税込 5,400 円(片耳)

ハッピーなとき、幸せを感じたときのひとの表情(口元)をモチーフに、学生がデザイン。笑っているひとの口とえくぼを抽象的に表現することで、日常でも使いやすいようデザインしました。耳元にはそれぞれパールを一粒ずつ配置しました。



『ミスパールプロジェクト』とは…

昨今、真珠はセレモニーの際に身に着ける高価なものというイメージが定着し、国内ではマーケットが固定され、需要は伸び悩んでいます。デイリーなファッションアイテムとして、「もっと気軽に自由に楽しみたい。」「私たちの欲しいカタチにしたい。」そんな思いから2014年にスタートしたのが、このプロジェクトです。2014年12月には、若い世代向けの新しい真珠のアクセサリブランド「ミスパール」を立ち上げました。

現在は、プロダクトデザイン学科、情報デザイン学科などの学生総勢15名(1年生～3年生)が参加し、株式会社カムデンの取締役・岡村暢一郎さんの指導のもと、真珠を学び、再価値化と魅力の発信に取り組んでいます。商品デザインや、プロモーションビデオの撮影、空間演出、WEBデザインなどを学生が手がけているのが特徴です。

『株式会社カムデン』とは…

真珠の川上から川下まで知り尽くしたプロフェッション集団。真珠養殖用原材料の販売や、関連機材の開発などを行っています。2006年から小売業に進出。さまざまなモジュールを組み合わせることにより、フォーマルにもカジュアルにも自由にパールを楽しむことができるブランド〈MADAMA〉(マダマ)を展開。美しい無調色真珠を使って、一粒一粒の色や形、輝きをいかしながらデザインされたジュエリーは、真珠の新しい可能性を提案しています。今回のプロジェクトでは、商品制作を担当するほか、取締役の岡村さんがプロジェクトの指導を行っています。

(本社:京都市左京区一乗寺樋ノ口町38)

『京都造形芸術大学・リアルワークプロジェクト』とは…

「本当の仕事に取り組みながら学ぶ」教育プログラム。企業や自治体などから寄せられる様々な要望について、学生がアート・デザインの力を使って、具体的にその問題解決に取り組むプログラムです。学生たちは、学科・コースの枠を超えて、自分の希望する内容・時期を選んで参加。専門性の異なる学生が毎年約40～50本の仕事に取り組んでいます。商品開発からまちづくりまで、仕事を通して社会とリアルにつながる学びの機会です。



学生らによる打ち合わせの様子



空間デザイン担当の学生らによるディスプレイ制作の様子